フレイル状態にある高齢者への意思決定支援

関連するSDGsの国際目標



人間看護学部　人間看護学科　　講師　　松井　宏樹
研究分野：老年看護学

概要：フレイルとは、要介護状態に至る前段階として位置づけられ、多面的な問題を抱えやすく、健康障害を招きやすい状態と言われています。その一方で、フレイルには、適切な介入により再び健常な状態に戻るという可逆性も示唆されています。つまり、フレイル状態にある高齢者は、健常な状態と要介護状態との狭間の時期にあると言えます。そのため、フレイル状態にある高齢者が自分自身の人生をどのように生きたいか支援していくことは、高齢者の生活の質を高めることにつながると考えています。

■フレイル状態にある高齢者への意思決定支援の質向上に向けた調査（文献研究）

文献調査の結果より、高齢者がフレイルに該当した場合や体重減少、筋力低下等の身体的変化を本人が自覚した際には、本人の意向を確認し始めるきっかけになると考えられました。一方、フレイル状態にある高齢者への意思決定支援の内容やそのプロセスについては、さらなる調査が必要であると考えています。

■フレイルという言葉の認知度

フレイルという概念が世間に浸透しているとは言い難く、フレイルと告げられた高齢者であっても、そのリスクや今後の生活への影響を想像することは難しいのではないかと考えています。今後、フレイルという言葉の認知度を高めるための活動や教材の開発等を目指しています。

＜論文＞

・「**意向確認の開始時期およびその内容に関する文献検討−フレイル状態にある高齢者への意思決定支援の質向上に向けて−**」松井宏樹（滋賀県立大学人間看護学部　人間看護学研究　(19)　11 ～ 17　2021年03月）